

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1 基本情報	
(1) 案件名	ウッタルプラデシュ州アグラ市の貧困地区小中合同学校の教育施設整備及び環境教育事業
(2) 事業地	インド
(3) 贈与契約締結日及び事業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 贈与契約締結日：2024年3月13日 ・ 事業期間：2024年3月14日～2025年3月13日 ・ 延長事業期間：1か月と2日（2025年4月15日まで）
(4) 供与限度額及び実績（返還額）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 供与限度額： 62,873,682 円 ・ 総支出： 56,135,750 円 （返還額： 6,737,932 円、利息 円を含む。）
(5) 団体名・連絡先、事業担当者名	<p>ア 団体名： 特定非営利活動法人 れんげ国際ボランティア会 【法人番号：3300-05-004658】</p> <p>イ 電話：0968-73-4851</p> <p>ウ FAX：0968-57-9913</p> <p>エ E-mail：info@artic.or.jp</p> <p>オ 事業担当者名： 久家 誠司（事務局長）</p>
(6) 事業変更の有無	<p>ア 事業変更承認：</p> <p>(ア) 申請日：2024年7月11日（School13） 承認日：2024年7月18日 内容：新規採用者（福岡洸太郎）の業務の変更</p> <p>(イ) 申請日：2025年2月20日（School11） 承認日：2025年2月28日 内容：事業期間延長（2025年3月13日を2025年4月15日まで延長）</p> <p>(ウ) 申請日：2025年3月27日（School13） 承認日：2025年3月28日 内容：本部スタッフ派遣費及び専門家派遣費の資機材費への移行</p> <p>イ 事業変更報告：</p> <p>(ア) 報告日：2024年6月11日（School11） 内容：出張日程・経路等変更</p> <p>(イ) 報告日：2024年7月1日（School12） 内容：本部スタッフ会計担当者の変更</p> <p>(ウ) 報告日：2024年10月30日（School14） 内容：出張日程・経路等変更</p> <p>(エ) 報告日：2024年10月30日（School15） 内容：本部スタッフ採用（小川 幸）</p> <p>(オ) 報告日：2024年11月5日（School16） 内容：アーカンシャ退職・アチュル採用</p> <p>(カ) 報告日：2025年1月31日（School17） 内容：出張日程・経路等変更</p>

	<p>(キ) 報告日：2025年1月31日 (School8) 内容：小川出張キャンセル</p> <p>(ク) 報告日：2025年1月31日 (School9) 内容：建設費変更</p> <p>(ケ) 報告日：2025年1月31日 (School10) 内容：学校トイレ設計変更</p> <p>(コ) 報告日：2025年3月28日 (School12) 内容：出張日程・経路等変更</p> <p>(サ) 報告日：2025年3月28日 (School14) 内容：出張旅費・経路変更</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ここでページを区切ってください。)

2 事業の概要と成果																																				
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>目標 1) 小中学校での学習環境と水・衛生環境の改善。これについては、多目的ホール、パソコン室、ステージ、生徒用トイレ、厨房、教室などの新築や増築など、当初計画した施設のほぼ全てを完成し、上位目標を充分達成できた。</p> <p>目標 2) 生徒の学習意欲や帰属意識の向上。これについても、教師に対するアンケート調査により、学校に誇りをもつことができた、表情が明るくなったという感想が、教師の半数以上から出されており、これを証明している。これは本事業で学校の施設設備の新築や改修で全てが新しくなったことが、大きな要因となっている。また本事業終了後、7月現在で43人の新規入学手続きがあり、そのうち20人は私立学校からの転校生、また19人は今まで未就学だった生徒であり、本事業が目標の達成に大きく貢献していることがうかがえる。</p>																																			
(2) 活動内容	<p>1 カラワリ小中学校校舎の新築・増築・改修</p> <p>1-1 建物の新築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室 11：24.46㎡。屋根付き廊下：平均幅2m。長さ25m ・多目的室：170.59㎡。・パソコン室兼図書：96.49㎡、ステージ：65.80㎡ ・児童生徒用 57.76㎡、(男子用：小5 大4、女子用：8) ・身障者トイレ：5.99㎡。主に身障者用だが、通常は教職員用としても使われる。 <p>1-2 既存室改修</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>教室 1, 2, 3, 4</td> <td>35.28㎡</td> <td>校長室</td> <td>7.80㎡</td> </tr> <tr> <td>教室 5, 7</td> <td>29.68㎡</td> <td>教師控え室</td> <td>11.53㎡</td> </tr> <tr> <td>教室 6</td> <td>34.73㎡</td> <td>厨房</td> <td>14.23㎡</td> </tr> <tr> <td>教室 8, 9, 10</td> <td>28.22㎡</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※教室は主に外壁の塗装のみ。</p> <p>2 持続可能な方法による設備拡充</p> <p>2-1 雨水集水システム 地下水が汚染されているため、特に屋根に降る雨水を集めて導水し、中庭地下の水槽に集める利用する雨水集水システムを導入した。パイプで導水して複数の浄化槽で濾過した後、地下貯水槽に貯水し、飲料として使用するものである。</p> <p>2-2 ソーラーパネルの設置：5 Kw 分。 学校の電気代を削減するために、ソーラーパネルを屋根の上に設置する。寿命は20年ぐらいである。</p> <p>2-3 遊具の新設・砂場・バイク置場の整備： 学校の中庭には遊具がなかったが、ブランコ、滑り台を設置した。また校門脇の大樹の下に砂場とバイク置場を整備した。</p> <p>3 衛生・水・環境意識向上のためのワークショップ 生徒、教員、地域住民（保護者）のために、提携団体のスタッフにより、一方的な講義形式ではなく参加型のワークショップを開いた。テーマ、開催日、参加人数等は以下のとおり。</p> <p>生徒対象： 環境・水・ゴミのワークショップ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>開催日</th> <th>時間</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 1</td> <td>水の循環</td> <td>Rajeev Kumar</td> <td>22.03.2025</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>214</td> </tr> </tbody> </table>						教室 1, 2, 3, 4	35.28㎡	校長室	7.80㎡	教室 5, 7	29.68㎡	教師控え室	11.53㎡	教室 6	34.73㎡	厨房	14.23㎡	教室 8, 9, 10	28.22㎡			No	テーマ	講師	開催日	時間	回数	参加人数	A 1	水の循環	Rajeev Kumar	22.03.2025	1	4	214
	教室 1, 2, 3, 4	35.28㎡	校長室	7.80㎡																																
教室 5, 7	29.68㎡	教師控え室	11.53㎡																																	
教室 6	34.73㎡	厨房	14.23㎡																																	
教室 8, 9, 10	28.22㎡																																			
No	テーマ	講師	開催日	時間	回数	参加人数																														
A 1	水の循環	Rajeev Kumar	22.03.2025	1	4	214																														

A 2	水の汚染	Rajeev Kumar	22.03.2025, 15.10.2024	1	4	267
A 3	表面水の物語	Rajeev Kumar	22.03.2025	1.5	1	214
A 4	下水処理工場のヴァーチャルツアー	Rajeev Kumar	22.03.2025,	1.5	4	214
B	学校環境開発と学級委員会の立上げ	Rajeev Kumar	08.09.2024 08.03.2025	2	6	60
C	学校ゴミの調査実践	Rajeev Kumar Siddharth Pandey	21.12.2024, 30.12.2024, 24.02.2025, 25.02.2025	4	4	224
D	リサイクル、リユースと堆肥作製	Siddharth S.Pandey	24.02.2025, 25.02.2025	3	2	193
E	行動を変えるワークショップ	Rajeev Kumar	05.04.2025, 19.11.2024	6	2	300
I	ガーデニング実践	Sourabh Nalme	13.11.2024	3	1	150

教師対象： 水・衛生新しい教授法開発ワークショップ

No	テーマ	講師	開催日	時間	回数	参加人数
G	水・衛生ワークショップ	Siddharth Pandey & Dr. Renu Khosla	09.12.2024	3	1	7
H	教授法開発セミナー	Sunita Bhadauria	25.02.2025	3	1	7

保護者対象： 環境・水・ゴミワークショップ

No	テーマ	講師	開催日	時間	回数	参加人数
F	保護者向け能力開発ワークショップ	Rajeev Kumar	22.03.2025	2.5	1	40

(3) 達成された成果

総論

これまで現地アグラの公立学校にはなかった多目的室、パソコン室、清潔で十分な生徒用トイレなどの新設や改修で、悲惨だった学校施設が新たに生まれ変わった。またこれにより、生徒、教師、住民、そして行政者の意識に顕著な変化がみられた。さらに雨水集水システムによる安全な飲み水の確保は生徒の健康のための最低条件を保証し、生徒、教師、保護者のための水、ゴミ、環境等に関するワークショップが、知識の増加と意識の変革をもたらし、事業を一層持続可能なものとした。これらは事業の大きな成果で、現地メディアも大きく報道し、社会的にも影響を与えた。

事業地はカースト制による被差別地区で、住民の貧困と低教育の連鎖を断つうえで、本事業は大きく貢献する。SDGsの観点からは、4 質の高い教育を皆に、1 貧困をなくす、6 安全な水とトイレ、10 不平等をなくす、の点に貢献する。

1 施設設備の改修・増築による成果

【成果の確認】： 現物の確認、教師へのアンケート調査、当会と現地提携団体のス

タッフによる現場での観察、聞き取り調査により確認した。ただし、事業終了からまだ3カ月後の調査であり、今後も調査を継続する必要がある。

【裨益者】生徒 345人。カルワリ地区住民 13,269人（児童生徒、教師、住民の合計人数、以下同じ）

①多目的室・パソコン室・図書室・ステージ（新設）

多目的室：学校での入学式などのセレモニーや、全校の集会、音楽会、グループ学習などに使用している。また教師の会議、保護者会、学校運営委員会などに使用されている。使用頻度は、2～3回/週。

パソコン室：生徒および教師のパソコン教育に使用。使用頻度は、1～2回/日。

図書室：パソコン室と兼用に計画していたが、2機能が同室すると使い辛く、別途教室の1室を図書室に改装することで現在計画中で、まだ実現に至っていない。

ステージ：中庭に面し、毎日の朝礼、集会などに使用。使用頻度は、1回/日。

②屋根付き廊下（新設）

雨期（6～8月）の降雨時や、猛暑期（3～5月）の強烈な日差しを避けて、室間の移動ができるようになり、教師や生徒の身体が保護されるようになった。また半戸外なので、休み時間中の遊び場、会話の場、昼食の場、生徒どうしや生徒と教師のコミュニケーション（触れ合い）の場となった。教師アンケートと当会スタッフの観察により確認した。

学校の業務では、朝の朝礼のために毎日使われている。屋根付き廊下の一角は、掲示コーナーとなっており、写真や新聞記事、各クラスの時間割等が示される。

③生徒用トイレ（新築）

トイレの不足、及び暗い汚い臭いの3Kは、新築前の生徒用トイレの大問題であった。事業によりトイレの数は以下のように大幅に増えた。

児童生徒用 男子小1→5、大1→4、女子用2→8

身障者用 0→1

これにより、トイレの不足、3Kが理由で欠席する生徒が0人になった。特に生理時の女子生徒の欠席が多かったが、0人になった。担当者によって、毎日清掃され、維持管理されている。

④雨水集水システム

雨水集水システムの成果は、本報告の時点で雨期を経ておらず、取水量をまだ正確には判断できず、ここでは計算上の結果を示す。

	事業前	事業後
屋根からの飲料用雨水取水量	0立米	→ 77立米
うち地下貯水槽への貯水量	0立米	→ 30立米
うち地下水涵養ピットへの導水	0立米	→ 47立米

校舎の他の屋根や地表水は、敷地内の地下水涵養ピットへ誘導され、涵養されてそのまま地下水となり、地下水の水位を上昇させるのに役立つ。

これらのシステムにより、雨水は効率的に地下貯水槽へ貯水され、また残りの屋根からの雨水や地表水は、涵養ピットに誘導され、地下へ浸透される。

正式な水質検査は、雨期をもう少し過ぎて行なうが、仮の検査結果では、これによる飲料水の変化に起因する生徒の健康状態の変化については、もう少し期間をおく必要がある。

⑤ソーラーパネルの設置

学校内の電気代を大きく節約できた。

事業前 5000 ㍴°-/月 事業後 0 ㍴°-/月

中学部と小学部は、契約電気容量がそれぞれ1kwで、毎月の電気代は2400-2500 ㍴°-で、計4800-5000 ㍴°-であったが、パネル設置後の電気代は、請求額は0と

なった。年間を通して判断せねばならないが、大きな電気代節約となっている。確認は電気代請求書による。

⑥本新築・改修計画に対する教師アンケート結果（回答数 10）

教師アンケートは落成式後の夏休みが終わり、新学期が始まった直後に行なったので、まだ正確な状況を反映していないので、重要部分のみ抜粋して記す。（）内は回答数/回答総数。

最も評価される施設と設備：多目的室（7/10）、生徒用トイレ（4/10）で、最も評価が高かった。多目的室は広くて便利がよく、毎週2回の頻度で様々な目的で使われている。設備で評価されるのは、雨水集水システム（7/10）、ソーラーパネル（6/10）で、安全な飲み水が充分確保され、また電気代が節約でき、またエコ配慮である点が評価されているようだ。

また屋根付き廊下も、単に通行や雨や日差しからの保護だけでなく、グループワークや昼食の場所などとして、多様な使い方がされている。（10/10）

生徒の変化：学校ないし自分たちに誇りをもつようになった（5/10）、表情が明るくなった（5/10）が、注目すべき点である。また欠席が減った（）ようだが、これは生徒用トイレの新築が要因と思われる。

今後の課題：パソコン教育については、教師自身がパソコンを持たず、また使えないので、今後ワークショップ等で教師のパソコンスキルを高めていくことが課題である。図書館教育も同じで、図書館としてハードの管理運営問題と、本の管理、本を使った教育など、課題が多く、今後時間をかけて進めていく必要がある。

⑦その他（新規入学の状況）

2025年4月以降9月まで、新学期の入学受付をしている。7月現在で43人の新規入学手続きがあり、そのうち20人は私立学校からの転校生で、また19人は今まで未就学だった生徒で、1年生レベルの導入クラスに編入された。他の要因は見当たらないので、これは明らかに、本事業による施設設備の更新と充実の成果と言える。

2 ワークショップの成果

①生徒ワークショップ

ワークショップ評価は、4年生から8年生までは記述式で回答、1～3年生はトーク形式で回答を得た。生徒の評価は、以下のとおりである。

項目	回答
全体的満足度	満足した - 208 (100%) 不満 - 0 (0%)
日常生活での役に立つか	非常に役に立つ - 190 (91%) 役に立つ - 18 (11%) 役に立たない - 0 (0%)
内容への関心度	非常に高まった - 127 (61%) 高まった - 81 (39%) 高まらなかった - 0 (0%)
内容の理解度	よく理解できた - 75 (36%) 理解できた - 133 (64%) 理解できなかった - 0 (0%)

このようなワークショップは生徒たちにとって初めてで、生徒の関心は高く、内容もよく理解できており、全生徒が満足したという結果で、成果は十分上がったと考えられる。

【裨益者】 児童生徒 345人 教師 13人 保護者 50人 計 408人

① 教師ワークショップ

参加者 教師 12名 延べ34名

ワークショップ1：テーマ「ゴミ処理」2025年2月25日実施

ワークショップ2：テーマ「水の保全」2024年12月9日実施

ワークショップ3：テーマ「ガーデニング実習」2024年11月14日実施

評価は、同じ設問で各ワークショップ事に行なったが、全部のワークショップの合計を以下に記す。個別の評価はどれもほぼ同じ傾向だったので、ここでは省略する

総合評価：ごみ処理・水の保全・ガーデニング					
項目	No	設問	回答		
内容について	1	話題は妥当だったか	はい	いいえ	
			33	1	
	2	評価してください	非常によい	よい	普通
			17	17	0
	3	説明は分かり易かったか	非常によい	よい	
34			0		
4	双方向的だったか	非常によい	やや	全然	
		31	3	0	
5	知識を得られたか	はい	いいえ		
		34			
実習について	6	参加し易かったか	非常によい	普通	全然
			24	10	0
7	内容の理解が進んだか	はい	いいえ		
		34	0		
将来の参加	8	将来も参加したいか	はい	いいえ	
			34	0	
9	役に立ったか	はい	いいえ		
		34	0		

教師にとっても、このテーマでのワークショップは初めての経験で非常に関心は高かった。評価結果を見る限り、手法が双方向的であることなどもあり、評価は高く、全員が将来的にもこのようなワークショップを受講したい、との結果であった。

直接裨益者 教師 13人 間接裨益者 生徒 345人

(4) 持続発展性

成果の維持・継続の見通し

新築・増築・改修されたカルワリ小中学校の建物は、アグラ市の公立学校として市に引き継がれ、今後も継続的に運営される。

事業成果の維持計画

学校は公立なので、アグラ市の教育局が建物の維持管理を継続していく。特に大きな予算を必要とするときは、特に行政に依頼する。また保護者等からなる学校の管理運営委員会があるので、日常の維持管理についてはこの委員会が行なう。

また、当会と現地提携団体の CURE は、今後も学校との協力関係を継続し、児童生徒や住民への環境セミナーやワークショップを継続し、また建物の維持管理状況を確認する。

当会は、令和7年度もN連事業としてカルワリ地区内の下水道整備事業を行ない、また令和8年度にも同事業を継続申請するので、カルワリ小中学校の維持管理や運営については、継続的に状況を把握していく。

3 その他	
(1) 固定資産譲渡先	ラップトップパソコンをカルワリ小学校に譲渡した。
(2) 特記事項	特になし。

完了報告書記載日：2025年8月10日

団体代表者名：れんげ国際ボランティア会

代表者肩書 氏名 川原 英照

団体としての最終版であることを確認済み（要チェック）

【添付書類】

- ① 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ② 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ③ 人件費実績表（様式4-c）
- ④ 一般管理費等 支出集計表（様式4-d）
- ⑤ 事業内容、事業の成果に関する写真（様式4-e）
- ⑥ 外部調査報告書
- ⑦ 残余金発生理由書（該当する場合）